



〒892-0841 鹿兒島市照国町13-42 カトリック鹿兒島司教区 電話099(26)5100 振込口座02030-2-8359 編集発行 教区広報部

道標



定例司祭集会

教区としてパウロ年の過ごし方検討



パウロ年の開始が宣言されたこの日のミサ

聖パウロの生誕二千年に当たって今年、教皇ベネディクト十六世は二〇〇八年六月二十八日から二〇〇九年六月二十九日まで一年間を「パウロ年」と定めた。郡山司教はこれを受け、鹿兒島教区としてのパウロ年の過ごし方について、六月二十四日(火)に開かれた定例司祭集会で次のような提案を行った。①鹿兒島教区には聖パウロを保護の聖人として四つの教会、玉里教会(鹿兒島市)、中種子教会(種子島)、嘉渡教会(奄美大島)、平土野教会(徳之島)がある。これらの教会への巡礼を奨励する。②パウロの手紙を読んでパウロの教えの理解を深める。③パウロの足跡を辿る巡礼を行う。

さらに、司教は特別聖年に付きものの全免償について、現代の信者にどのような説明したらよいか、またそれは信仰の成長に有益なのかどうかを司祭団に問うた。司祭たちからは司牧面からのさまざまな考察を加えた発言がなされたが、全免償を得るための行為は有益ではあるが、それと同時に信者が教会でパウロの思想を深く理解する機会を設けることが大切であるとの意見が出された。定例司祭集会の終りに郡山司教と三十人の司祭団でさげられたミサで司教は「私たちは弱く足りない。でもそこに目を向けるだけでなく、キリストから

期待されている部分に着目して、歩みを進めていこう」と信者メッセージを送った。尚、このミサで教区における「パウロ年開始」が宣言された。

小教区財務管理規定の見直しを検討 教区司祭地区財務委員会

五月二十五日(日)、教区本部で教区司祭地区財務委員会が開かれ、教区司祭地区会計の二〇〇七年度の決算、二〇〇八年度の予算を審議し、承認された。審議の中で、収入の六割以上を占めている司祭寄付金や教会補助金、祭

第17回夏期集中講座

テーマ 福音書の奇跡物語を読む 日時 8月18日(月)～22日(金) 午前部/10時～12時 午後部/19時～21時 場所 ザビエル教会1階ホール 講師 竹山 昭神父 受講料 1人500円(資料代) 申込 教会、修道院ごとにまとめて、8月10日(日)までに教区本部「夏期集中講座」係まで

樽@099(225)0440

奄美修道院を閉鎖した。▼聖心の布教師妹会 四月三十日をもって、阿久根修道院を閉鎖した。▼修道女連盟総会 教区修道女連盟(澤ヤエ子会長)では、五月十八日(日)ザビエル教会で総会と研修会を開いた。講師は日本二十六聖人記念館館長デ・ルカ・レンゾ神父で日本における殉教者の意義など学んだ。

今年も楽しくフライピンデー

六月十四日(土)カテドラル中庭でスペインからの独立を記念する「フライピンフェスタ」が開かれた。この催しはベルナルディーノ神父(ザビエル教会協力司祭)フライピン人を中心となつて昨年から実施しているもの。県内各地で生活しているフライピン



人たちが食事やパフォーマンスで、信者や市民と楽しく交流した。

修道会便り

▼福音の光修道会 三月三十一日をもって、

新風

平成十八年十二月二十一日、五十九年ぶりに教育基本法が全面的に改正されました。旧法は戦後の混乱の時期(昭和二十二年)の発布でした。改正で目に留まった二つの点だけを紹介します。まず、第二条に「教育の目標」を創設し、具体的な五つのポイントを挙げています。その第一項に「豊かな情操と道徳心を培う」という文章があります。もう一つは第十条「家

教育基本法の

五十九年ぶりの改正について

庭教育」です。「父母その他の保護者は、この教育について第一義的責任を有するものであって、生活のために必要な習慣を身に付けさせる」とともに、自立心を育成し、心身の調和のとれた発達を図るよう努めるものとす」とあり

今日のは、尊属殺人や短絡で残虐な殺人が多発しています。学級崩壊、家庭崩壊も叫ばれて久しいです。このような殺人の多発は学級崩壊、家庭崩壊と深く関係しているようにみえます。一般的問題としてではなく、教育基本法を質量共に改正したことは評価すべきことだと思います。知的偏重ではなく、豊かな情操と道徳心を教育の目標として

ますし、突き詰めると教育全般の問題であるともいえます。このような現行の日本社会に対し、国会が手をこまねいて見過ごすのではなく、まして政治

ザビエル上陸記念祭

8月17日(日)

第一部 ザビエルウォーク(14時) 祇園之洲ザビエル上陸記念碑前からザビエル教会までを祈りながら歩きます。教会では鹿兒島ユネスコ協会と協力して「平和の鐘」を打ち鳴らします。第二部 記念ミサ(17時) 第三部 祝賀会(18時30分) ザビエルクイズに挑戦しましょう! ※前売券千円(当日券千二百円)

YET

間もなく九か月になると息子を見ると悲しくなる時がある。「父を」

「母を」と慕うその姿があまりにも純粋で、物知らずだからだ。そんな枯れることのない信頼を寄せられて、そしてその瞳に一片の疑いを持たないことを見て取ると、ただただ「ごめんなさい」としか言えない自分が恥ずかしいからだ。あんな眼で生きていた時代が本当にあったのだろうか。▼聖母月に幼稚園の聖母行列を見せられたら。生憎の雨模様で、園庭での催しは取りやめ。園舎内での行事となった。それでも美しく着飾った花時き娘たちは、喜び一杯にマリア像に花びらを振り掛ける。その健気な子どもたちのマリアへの感謝の心は、愛らしく美しい。周りの大人たちをも引きつける。本当に「幼子のようにでなければ」と言われることの証がそこにあるようだった▼「どうかお父さんのように」と首を差し出し、殉教した父の後を追った五歳のペトロ、八代の殉教者。「わたしは信仰を捨てません。信仰を捨てる者は天国には行けません」と叫んだ七歳のマルタ(京都の殉教者)。あまりにも美しく純粋すぎる殉教者。二人とも両親の、そして近しい大人たちが育て上げた信仰だと思ふ。そろそろ息子に、妻に洗礼をと思ひながら、己の生き様の有り様に「それでも」の思いの足りなさを感ずる二の足を踏んでいる。

信仰に生きた先人達

1 ※参加者を温かく迎える
 ※主をお招きするための祈り ※リーダーによる説明 (15分)、今日の講座の流れを説明
 ・分かち合いのルールについて

①三人以上のグループにならないように。②分かち合いの内容は他言しない。③一人で、話したいだけ話すのではなく、聴くことを大切に。④テーマからそれないように。⑤悩み相談にならないように。

福音に忠実に生きてきた人々や聖人たちの写真をテーブルの上に数枚用意する。ローソク、十字架、テーブルを中心に円形に着席。

(ゆっくりと間をおいて二回読まれます。)

「二六三二年二月イエズスの日本人、ディオゴ結城了雪神父は、大阪において穴の中に逆さに吊るされて、三日目に殉教した。」熾烈な迫害の時代に高位武士の出身であった彼は何を大切にしていたであろうか？彼の生き方は「私は誰にも迷惑をかけなかった。」という彼の最後の言葉が物語っている。徳川幕府がキリシタン逮捕の手段として「訴人報奨制」を採り入れたことにより、教会内部には信者同士の疑心暗鬼がもたらされた。捕らえられた信徒はもう一人の信徒を訴えなければ釈放されず、神父が神父を訴えた悲しい出来事も起こった。結果として疑心暗鬼の信

者たちは教会を内部から崩壊させていった。

そのような状況の中で、結城了雪は「二十数年、森の中で木の実や草を食べて生活してきた。」と自分を援助した人々をかばい通して、一言も漏らさず死を選んだ。一言でも漏らせば、彼らにどれ程の迷惑をかけるかを承知していたので、誰にも迷惑をかけるに生き、死ぬという宣言をしていたのである。彼が一番心配していたのは彼の一言が教会を内部から崩壊させると

任をとり、行ったことをきちんと説明できる人間の育成を目指している。
 結城了雪は、人としていかに生き、いかに死ぬかを私たちに問うている。彼の生涯を貫く精神は高貴であり、高潔である。またその出自と才能ゆえに教会から将来を嘱望された人物であった。それを証明するのが最後の彼の宣言であった。「私は誰にも迷惑をかけなかった。」

北薩地区宣教奉仕者

(信徒使徒職) 養成講座(祭)

出水教会主任司祭 大松正弘

問いかけ(まず五分間それぞれ自分を振り返り、必要に

いうことであった。自らが責任を背負って死んでいく心意気が伺える。

無責任の時代といわれる今日、ただ、会場で頭を一斉に下げている場面を毎日のように拝見する。他人に責任をなすりつけてでんとして恥じず、その場をごまかしてでも切り抜けていこうとする態度がそこには伺える。また一切の面倒な仕事を引き受けず、何かあれば人のせいにして自ら省みることがない、いわゆる要領の良い生き方を徳とする人生観もある。第二バチカン公会議はその閉幕前に「キリスト教教育に関する宣言」を教令として発布した。その原則によると「責任ある人間の育成」である。自らの立場を理解し、行ったことへの責

成じてメモしてください)
 1 あなたは教会の中で、共同体や社会に対するキリスト者の無責任な姿勢があると
 思いますか。具体的にどんなことですか？何がその原因だと思えますか？
 2 あなたはどのようにしてこの「無責任」を克服してきましたか？あるいは克服しようとしているのでしょうか？

※小グループに分かれての分かち合い。自分の生き方と照らし合わせて(各問いかけについて10分、全体では30分)

※質問は一つずつ、分かち合いと報告をしながら進んでいきます。

1 リーダーによるまとめ。内容についての質問やコメントが出され長くなることもあります。(10~15分)

創世記十二章一節~五節を
 読んでみましょう。
 主はアブラムに言われた。「あなたは生まれ故郷、父の家を離れて、私が示す土地に行きなさい。」

私はあなたを大いなる国民にし、あなたを祝福し、あなたの名を高める、祝福の源となるように。あなたを祝福する人をわたしは祝福し、あなたを呪う者をわたしは呪う。地上の氏族はすべて、あなたによって祝福に入る。」アブラムは、主の言葉に従って旅立った。ロトも共に行った。

アブラムは、ハラを出発した時七十五歳であった。

2 祈り(自分を神の前に置き、振り返る。10~15分。サダナの祈りによる)

今日の一日、何がありましたか？
 わたしはキリスト者として責任ある行動をとってきたでしょうか？神様や共同体に対して責任ある信仰を生きさせてくださいませんか？

神様と共同体に対して、わたしはどのように変わることを求められているでしょうか？そのために、何を捨てなければならぬのでしょうか？

イエスはわたしたちのために何を捨ててくださったのでしょうか？ご自身を与えつくり、命さえも捨てて下さったイエスに最後まで従うことができますようにお導きください。

アブラムは妻のサライ、甥のロトを連れ、蓄えた財産をすべて携え、ハランで加わった人々と共にカナン地方へ向って出発し、カナン地方に入った。

①結城了雪やアブラムのように自分の人生を変えた人々を知っていますか？
 ②アブラムを信仰の父と呼ぶのは「捨てた」からです。わたしに「捨て」なければならぬものがあるでしょうか？それは何ですか？(隣同士での分かち合いと全体での発表)

1 リーダーによるまとめ。内容についての質問やコメントが出され長くなることもあります。(10~15分)

次回はい来教会にて七月二十日(日)午後二時から。どなたでも参加できます。

司教執務室便り

パウロ年が始まった

教皇ベネディクト十六世は使徒パウロの生誕二千年を記念して六月二十八日から来月六月二十九日までを「パウロ年」と定められた。という事はパウロ年はすでに始まっていることとなる。実際、長崎大司教区では、開年ミサが浦上教会で去る六月二十九日(日)に捧げられた。

ところで、鹿児島教区に四つのパウロ教会があることをご存知だろうか。平土野教会(徳之島)・嘉渡教会(大島)・中種子教会(種子島)・玉里教会(鹿児島)。各地域に具合良く点在しているのが面白い。

これら四つの教会に思いを馳せながら考えた。鹿児島教区のパウロ年のテーマは「パウロに学ぶ」。まず、スタンプリー巡礼というのはどうだろうか。四つ

の教会を少なくとも一回巡礼し、赦しの秘蹟・ミサにあずかり、教皇の意向のために祈る。そして、各教会が独自に作ったスタンプをもらう。主任司祭のサインとその証明となる。そうすると、主任司祭をはじめ迎える信者たちのんびり出さない。静かだった教会に人の出入りが頻繁になり、華やぐ。北から南へ、南から北へと鹿児島中の信者が動き出す。想像するだけでワクワクするではないか。もっとも、みんなが動き回れるわけではないので、それが難しい人は一つの教会でもいい。いや、巡礼そのものが難しい病気や入院中の人、介護に当たる人は赦しの秘蹟や聖体拝領などできることをすればいい。もちろん、この人々もスタンプがもらえる工夫をする。

そして、一年間特定の人のためにパウロの執り成しを願って回心や和解、召命や病気快復を集中的に祈る。

来年の六月二十九日には各教会で閉年ミサが捧げられ、スタンプの押されたカードが奉納されることになる。

ところで、鹿児島からの列福式参加者は八百人も上るといふ。一日限りの巡礼に終わらせないためにも、パウロ年の巡礼を是非具体化したい。そして参加者が全教区民に及ぶことを期待したい。



+KABAYAN SEKSIYON+

"Ang Pagkaisa ng Luma at Bagong Tipan"

Ang Diyos na maawain at mapagmahal ay pinahayag ang sarili diyan mismo sa kanyang Salita, na naging laman-tao, si Jesukristong Panginoon. Malalaman natin na sa simula pa lang kasama na ng Ama ang kanyang Anak at iyon nga ipinahayag sa atin. Mula sa Lumang Tipan hanggang sa Bagong Tipan. Ang dalawang librong ito ay hindi pwedeng paghiwalayin dahil sila ay nagkakaisa.

Ngayon ang Simbahan, sa maagang panahon ng mga apostoles at kanyang pagpatuloy ng Tradisyon, ay naliwanagan ang pagkaisa ng plano ng Diyos sa dalawang tipan sa pamamagitan ng "typology"-tipolohiya, na pinagnilay-nilayan ang gawa ng Diyos sa Lumang Tipan na ipinakita ang kanyang misyon sa kabuonan ng panahon sa persona ng kanyang Anak na naging tao.

Kaya ang mga Kristiyano, binabasa ang Lumang Tipan sa liwanag ni Kristong ipinako at nabuhay muli. Ang ganitong tipolohikal na babasahin ay binubuo ang kagandahan ng Lumang Tipan; subalit hindi dapat natin makalimutan na ang Lumang Tipan ay pinapanatili ang sariling halaga bilang Kapahayagan na ang Panginoon mismo ang nagtalaga.

Sa kabilang ibayo naman, dapat din basahin ang Bagong Tipan sa liwanag ng Lumang Tipan. Ang katekismo ng mga sinaunang Kristiyano ay naayon sa pag-gamit ng Lumang Tipan. Tulad ng paglagay sa lumang kasabihan, ang Bagong Tipan ay natatago sa Luma at ang Lumang Tipan ay binubuksan sa Bagong Tipan.

Pinapakilala ng Tipolohiya ang dinamikong galaw patungo sa katuparan ng plano ng makapangyarihan, na kung saan ang "Diyos ang magiging lahat ng bawat isa.

Tayo rin kung susundin ang kalooban ng Diyos Ama na ilagay natin ang tiwala at pananampalataya sa kanyang Bugtong na Anak, tayo rin ay kanyang magiging mga tagapagmana ng kaharian ng Diyos diyan kay Kristo. Kaya ang lahat ng ito ay plano ng Diyos Ama sa pagpahayag ng Luma at Bagong Tipan.

若芽を出す古木のよう

出水教会が献堂五十周年を記念

現聖堂の献堂五十周年を迎えた出水教会(大松正弘神父)は、六月一日(日)午後、毎年恒例の「北薩カトリック大会」の中で、その記念と感謝のミサをささげ、新たな一歩を踏み出した。

武家屋敷群の中に立つ出水教会は日本二十六聖人が



これから若々しくと願う聖体拝領

山司教をはじめ二十余人の司祭、そして二百五十人近い信徒が参列し、ミサで感謝をささげ、祝賀会で喜びを分かち合った。ミサでは、助祭時代に出水教会で実習したという郡山司教が説教で次のようにメッセージを送った。

出水教会の歴史

明治の終わり頃、長崎から移住してきた信徒がカトリックの第一歩を記した出水の地に教会が誕生したのは、フランシスコ会のマリオン・ボネ神父が派遣された一九三五年頃のこと。それまでは川内教会から司祭が巡回し、信徒の家でミサがささげられていた。その後、一九三七年には借家を仮聖堂として使用するまでになったが、

翌年勃発した支那事変以来、外国人宣教師排斥運動のあおりを受けて教会は閉鎖という冬の時代を迎えた。水保から司祭が訪問するようになったのが一九五〇年頃のこと。鹿児島からの司祭の訪問が実現したのは一九五二年になってから。その出水市に現聖堂が建てられたのは、一九五八年。隣接の聖母幼稚園創立から一年後のこと。三月三十日、里脇司教により献堂された。

「銀杏の古木の枯れた幹から若芽が出るように、五十年を過ぎた出水教会もそして信者も、若芽を出す秘訣を知っている。秘訣はイエスという土に

教会のあるべき姿を探る

レジオマリエが黙想会

六月三日(火)ザビエル教会でレジオマリエ鹿児島コミニウム主催の黙想会があった。講師は行橋教会福岡教区)の山元 眞神父で百三十人余りの信者が熱心に講話に聞き入った。

「教会ってなあに」をテーマに掲げたこの日の黙想会で、山元神父は最初に参加者たちが持つ教会のイメージを拾い上げた。皆が出した教会のイメージは「生命溢れる泉」「神の家」「心の拠り所」など。それに対して山元神父は「教会がそんなによい場所なら、どうして人々が集まらないのだろう」と切り込んだ。その上で「教会は神の望みを実現

根を下ろすこと。そうすれば年を取っても若い芽を出すことができる。希望が持てる。私たちは希望の証にならなくてはならない。しかし時々、自分の知識や経験、体面や常識に根を下ろしてしまいう弱い私たち。だが、そうであっても主日のミサで、聖体拝領で、土台をキリストへと切り替える更新を行い、明日へ明日

へと歩みを進めて欲しい」ミサ後には聖母幼稚園ホールに会場を移し、大勢の信者たちが交流し、記念の日を心から喜び合った。五十年を記念した教会では、祭壇横に「日本二十六聖人と共に五十年」として「これからも」と記した大きな書を掛け、新たな一歩を踏み出す決意のほどを伝えていた。

喜界島教会に電話 喜界島教会に電話が引かれた。番号は次の通り。TEL 〇九九七―六五―二四五五

奄美宣教師牧を考える会 六月十五日(日) 名瀬聖心教会で、「奄美宣教師牧を考える会」の初会があった。

秋の教区評議会のため 準備としても開かれたこの会には、司祭八人、修道者五人、信徒二十人(男女十人ずつ)が出席し、これまで信仰を伝えて来られなかったという反省点から、奄美という地域性を活かす宣教師牧について熱心に意見を交換し合った。

最後の生徒が聖母行列

川内純心高等学校

一九六〇年、川内市の要請にこたえて鹿児島純心女子高等学校川内分校として誕生した川内純心女子高等学校は、来年三月一日の閉校式でその

歴史に幕を下ろす。現在の在校生十人は閉校が発表された翌年(二〇〇六年)の入学者たち。その十人が最後の聖母行列を締めくくった。

聖母月最終日の五月三十一日(土)は川内純心女子高等学校と川内聖母幼稚園、鹿児島純心女子大学附属純心幼稚園合同の聖母



行列。見事なまでに美しい芝生の上を白いベールにドレス、花冠を着けた最後の生徒たちがマリア像を載せた台を担いで歩き出す。その後ろには花まき担当のこれまた可愛らしい幼稚園児十人ほどが続く。そして総勢二百七十人ほどの園児たちもよい子で行進。

「世界平和を、心の平和を」と願って聖歌を歌い、また「聖母マリアへの祈り」が延々と唱えられる。幼稚

短信

園舎に目をやると「平和の調べを奏でる聖マリア」「天の元后聖マリア」など七本の垂れ幕が下げられている。その中でゆっくりと歩みを進める聖母行列。目的地は校庭中央。そこでは奉獻式がある。皆が聖母月に努力してきたことを祈りのカードと百合の花と一緒にマリアにささげるのだ。あの三年一組から奉獻し、幼稚園のゆり組、ばら組と続いていく。そして先生たち、卒業生たち、親たちまでもが。説教を担当した橋口啓悟神父は「マリアのようにやさしくあること」を訴え、祝福を送る。そして最後は記念撮影。誇らしげな表情の園児達に比べて、高校生の表情には複雑な思いが感じられた。

7月

今月の暦

- 3日(木) 聖トマ使徒
- 6日(日) 松森孝郎神父霊名
- 7日(月) 年間第十四主日
- 9日(水) 司祭評議会・教区本部・10時
- 9日(水) 竹山 昭神父叙階記念日(一九六七年)
- 13日(日) WYDシドニー大会(22日まで)
- 13日(日) 看護協会血圧測定・玉里教会
- 13日(日) 年間第十五主日
- 14日(月) 村田源次神父命日(二〇〇七年)
- 20日(日) 年間第十六主日
- 21日(月) 典礼研修会・ザビエル教会・13時30分
- 21日(月) ユゼビウス神父命日(一九七九年)
- 23日(水) テイエン神父叙階記念日(二〇〇六年)
- 25日(金) 聖ヤコブ使徒
- 27日(日) カトリック幼稚園教師研修会・霧島国際ホテル・26日まで
- 27日(日) 福岡英雄神父霊名
- 27日(日) 年間第十七主日
- 31日(木) 古田町教会百周年記念式典
- 31日(木) ハヌス神父叙階記念日(一九五五年)

典礼研修会

―典礼規範に基づく日本固有の美しい典礼―

日時: 7月20日(日) 13時30分
場所: ザビエル教会一階ホール
講師: 南雲正晴神父(フランシスコ会・聖アントニオ神学院典礼神学教授。東京カトリック神学院典礼学講師、ローマ典礼秘跡省顧問)

黙想会のご案内

テーマ: イエスと“今”を生きる
講師: W・キップス神父(レデンプトール会)
日時: 7月26日(土) 10時~27日(日) 16時
場所: マリア山荘(霧島市溝辺町麓 3616-4)
申込先: 西TEL 0995-63-1943 / 宮路TEL 099-262-4022

連合壮年会定期黙想会

日時: 7月12日(土) 14時~13日(日) 12時
場所: マリア山荘
テーマ: 主の食卓を囲んで
指導: 美島春雄神父(ザビエル教会)
参加費: 三千元

「ありがとう！」教区の皆さん

緊急募金協力へお礼

鹿児島教区長 郡山健次郎

逼迫している教区会計の正常化に向けての妙案をえないまま、昨年、信徒の皆様が緊急募金をお願いしました。唐突な感じがしたかもしれませんが、目標額の六百万円を超える募金を頂くことが出来ました。心から感謝いたします。

おかげさまで、少なくとも今年度は「教区司祭地区会計」からの繰り入れをしないで済みます。しかし、今後数年での正常化のめどが立っていないことから、大変心苦しいのですが、募金期間を来年六月までとさせて頂きたいと思っております。ちなみに、今年度の

教区会計の予算額は約三千五百万円ですが、昨年度に比べて実質約百万円削減されています。冷房を我慢したりしてみんなが努力した結果です。教区会計の主な支出先は、司祭他本部に勤務する司祭・信徒四人分の給料と事務運営費です。気になることは、本命の宗教活動費です。そのうちの教育養成費は、今年オーストラリアで開催される世界青年大会参加者支援のために四十万円の増加になっていますが、青少年の信仰教育のために毎年たくさんのお金を使いたいと思っています。

教区司祭地区の皆さんにお話します。ご存知のように、教区司祭地区は、利益を生むような資産を持ちません。収入源は、信徒の皆さんの維持費や献金、それに幼稚園や大学から給料を支給される司祭たちによる寄付金が主なものです。しかし、司祭たちからの寄付の総額が皆さんからの維持費や献金の総額よりはるかに大きいことを付け加えなければなりません。これは、教区の財政正常化に向けて、信徒の皆さんに是非考えていただきたいところと、ところで、現在、鹿児島

マリアさまいつもありがとう！ カリタス幼稚園の聖母行列



教区には四十四人の司祭・司祭がいます。そのうち教区司祭地区からは二十四人の司祭・司祭に給料が支給されています。それに小中学生四人、大神学生二人がいます。司祭も増え、神学生も増えて嬉しいことですが、一方では支出がかさむ

ことになりま。この世に生きる教会の苦しいところ

次に、教区のすべての皆さんにもお話しします。私は長い間幼稚園に関わった体験から、司祭は幼稚園に拘束されることなく司牧と宣教に専念すべきだと考えています。園長職は対社会的な仕事で手を抜くことが出来ません。ですから司祭としての三分の二のエネルギーを園長職に費やすことになりま。一方、司祭職に専念すればすべきことはたくさんあります。

文芸

俳句 (思川俳句会作品)

市来房枝選

純心学園 山頭 信子
少年の決意さわやか堅信日
草笛や子供と歌うアベマリア
(評) 日頃の教会学校でのご指導の賜
と思う一句

出水 遠竹 睦郎

白鷺の青田に遊ぶ夏日かな
(評) 爽やかで声調が整った佳作
純心学園 川上 和
霧雨や紫陽写す庭の池
(評) 紫陽の間接的な表現が新鮮

白百合や山鳩鳴きて日の暮るる
鹿児島 徳永ノブ子
笑い声弾む園児や藤の花
国分 政 ノブ子

短歌 (思川短歌会作品)

市来房枝選

鹿児島 春山マリ子
ひまわりの花いっせいに空に向く
鹿児島 龍門司真人
郭公やマリア山荘誘いぬ
紫陽花のこぼるる程の聖堂かな
純心学園 川上 和

出水 遠竹 睦郎

献堂より五十周年の記念ミサ信徒集
ひて互ひに祝ふ
(評) 半世紀に亘るさまさまな思いが
甦ってこられたことだろう。結局
に信者の喜びが伝わってくる。
構内に飾りし七夕眺めつつ乗降客は
通り過ぎゆく
大口 森 博伸

ラゲ訳の文語の御言葉若き日のこころに
灯り今もゆらめく
(評) 作者は成人する前(若き日)に

純心学園 川上 和

学園のルルドの聖母森のかげ五月の
空に歌声ひびく
鹿児島 前田 儀子

在りし日の父の琵琶の音映像と共に
聴くとき儂淡し
鹿児島 春山マリ子
一杯の冷き水を含みつつ生きる幸せ
自と湧けり

鶴の里出水をしめす歌碑親し稔り田
続く荒崎あたり
八月は広島に集る長崎の浦上の鐘鳴
りわたる刻
鹿児島 田平新太郎
母病みて「九日祈禱の祈り」始めたり逝
きて三年いまでも続けぬ

選者詠

しかし、体力的精神的に両立させることがいかに難しいかは経験から言えることです。この点も是非考慮していただいて、教区の自立を皆さんで真剣に考えていただきたいと思います。

お祈りに感謝 治療を終えて

この度の入院加療中には多くの方々のお祈りに支えられて、所期の計画通り、すべての治療を無事終えることができました。心からお礼申し上げます。途中、登りきるには辛い坂道もありましたが、皆さまのお祈りに支えられて、どうにか峠を越えた感じを抱きました。三月に総合検査の結果、全治療を終了いたしました。これからは毎月一回、三か月一回の経過観察を続けることになりま。今は日々、体力の回復を図りながら、すこぶる元気になっております。皆さまのために私のこれからの闘病中の祈りをささげたいと思っております。(始良教会 松田清四朗神父)

パウロ年公開講座 TV放送ご案内

六月六日(金)カトリック麹町教会で開催されたパウロ年公開講座「パウロから学ぶ現代日本の福音化」の模様をテレビで放映されることとなった。是非、ご覧いただきたい。
放送日時 七月二十四日

垂水幼稚園特別賞に輝く MBCハンドクラフト展

第十七回MBCハンドクラフト展(手芸・工芸公募展)は鹿児島市の県歴史資料センター黎明館で六月七日(土)から十五日(日)まで開かれ、垂水カトリック幼稚園の作品「大きな木」が特別賞に当たる「そうしんアイデア賞」を受賞した。



は、中心の大きな木が子どもたちの手形や顔で飾られたほほ笑ましいもの。作品は百九十六点の内から選ばれたもので、昨年に続き二年連続の受賞となった。

映画『マリア』DVD発売

昨年劇場公開されたマリアの受胎、イエスの誕生、エジプトへの出国までをその伴侶ヨセフの姿とともに描いた映画「マリア」が、6月27日(金)からDVDとして販売されている。DVD化に際し、キリスト教関係向けパッケージも用意され、これには映画の場面写真と聖書の引用を載せた春佐久神父監修のストーリーブックが付けられている。価格は税込み3,990円。

カトリック新聞

へえ、日本の教会は
寺こうなんだ・・・
ザビエル

カトリック新聞は、日本のカトリック教会唯一の週刊全国紙です。全国、海外の読者様のお手元へ毎週届きます。また、全国のサンパウロ・女子パウロ会書店でも販売しております。

〒135-8585 東京都江東区新発 2-10-10 日本カトリック会館5階 カトリック新聞社
TEL 03-5632-4432 FAX 03-5632-7030 Email kodoku@cwjpn.com

1部本体価格150円(税・送料別)
購読料金(前納、税・送料込)
半年4740円・1年9480円

見本紙贈呈いたします